

第4回 津山市総合計画審議会 次第

日時：平成17年7月25日(月)

午後1時30分～

場所：津山市役所 大会議室

1. 開 会

2. 審議会委員の紹介(審議会委員名簿)

3. 議 事

(1) 報告事項

市民意見反映のとりくみについて

・地区別懇談会(中間報告)

(2) 協議事項

津山市の現況と課題の把握にあたって

津山市第4次総合計画の策定にあたって

(3) 意見交換

4. その他

5. 閉 会

津山市総合計画審議会委員名簿

平成17年7月25日現在

氏名	団体名
阿部 武治	津山工業高等専門学校
浮田 佐平	津山商工会議所
後山 富士水	津山市連合町内会
大山 光	津山青年会議所
小坂田 昌平	津山市体育協会
川端 恵美子	津山市議会
菅田 貞男	加茂地域審議会
小林 彬二	岡山県美作県民局
権田 直良	津山市議会
佐々木 裕子	津山市議会
重松 勝江	公募委員
杉山 和之	久米地域審議会
田中 勝子	津山市観光協会
田原 清資	津山市社会福祉協議会
田村 正敏	作州津山商工会
為 貞 友美	美作大学
土肥 祥嗣	津山市消防団
友保 一成	津山農業協同組合
豊田 道弘	津山市民生児童委員連合協議会
長江 真理子	つやま市民活動センター運営委員会
中島 壮太	津山市医師会
長滝 健吾	津山市森林組合
西野 修平	津山市議会
平井 恵美子	公募委員
平井 雅美	勝北地域審議会
藤本 明弘	阿波地域審議会
藤本 貴子	津山市愛育委員連合会
藤本 晴男	公募委員
二木 幸子	津山市PTA連合会
美見 みち子	津山市議会
水野 久壽也	津山市老人クラブ連合会
目瀬 守男	美作大学
森岡 和雄	津山市議会
森西 順次	津山市議会
八木 芙佐子	津山市文化連盟
保田 佳子	小中学校校長会
柚本 夏輝	津山工業高等専門学校

津山市第4次総合計画 地区別懇談会日程表

日 時	地 区 名	人数	会 場
7月2日(土)	14:00 ~ 16:00	東津山・城東・林田	36 作州城東屋敷
	18:00 ~ 20:00	城南・中央・鶴城	28 雇用労働センター
7月3日(日)	14:00 ~ 16:00	城北・城西	35 総合福祉会館
	18:00 ~ 20:00	西苫田	33 西苫田公民館
7月9日(土)	14:00 ~ 16:00	二宮	33 二宮公民館
	18:00 ~ 20:00	院庄	33 院庄公民館
7月10日(日)	14:00 ~ 16:00	佐良山	34 佐良山公民館
	18:00 ~ 20:00	福岡・福南	32 婦人青年の家
7月16日(土)	14:00 ~ 16:00	一宮・高田・高倉	37 高田公民館
	18:00 ~ 20:00	田邑	29 田邑公民館
7月17日(日)	14:00 ~ 16:00	神庭・滝尾・成名	26 清泉公民館
	18:00 ~ 20:00	高野・広野	43 高野公民館
7月20日(水)	18:00 ~ 20:00	東苫田	27 東苫田公民館
7月23日(土)	14:00 ~ 16:00	大崎・河辺	43 河辺公民館
	18:00 ~ 20:00	阿波地域(地域審議会委員含)	31 阿波公民館1階大会議室
7月24日(日)	14:00 ~ 16:00	加茂地域	18 加茂町文化センター2階会議室
	18:00 ~ 20:00	加茂地域(地域審議会委員)	12 加茂町文化センター2階会議室
7月30日(土)	14:00 ~ 16:00	勝北地域	勝北支所2階会議室
	18:00 ~ 20:00	勝北地域(地域審議会委員)	勝北支所2階会議室
7月31日(日)	14:00 ~ 16:00	久米地域	久米支所2階大会議室
	18:00 ~ 20:00	久米地域(地域審議会委員)	久米支所2階大会議室

(出席予定者)

津山市連合町内会支部長に推薦をいただいた市民の方
 専門家集団の方
 特別職、策定委員(担当部課長)、事務局

津山市第4次総合計画 地区別懇談会 中間報告

平成17年7月25日
美作大学地域生活科学研究所

7月2日より地区別懇談会を開始し、7月17日までに12地区で懇談会を実施した。

この中間報告は、懇談会の中から、全市的に見て重要と思われるものを列記している。

1. 各支部の共通課題

- 1) 昨年の台風による倒木被害
風倒木を含む土石流による住宅・道路・農地などの2次災害への対応。(当面の課題)
植林後の管理問題と第4次総合計画期間内の台風による倒木問題への対応(総合計画の課題)
- 2) 防災無線等緊急通信システムの構築
- 3) 自主防災体制の確立・避難先及び避難経路の安全確保・防災設備の充実
- 4) 学校安全など防犯体制の確立・携帯メールなどの連絡網構築
- 5) 高齢者の健康維持と社会参加(産業活動・雇用促進・ボランティア)
- 6) 子育て支援(障害児及び家族への支援を含む)
- 7) 総合ごみ処理センターの建設と現在の処理施設跡地利用の方向
- 8) 河川の改修・浄化・親水空間化

2. いくつかの支部に共通すると思われる課題

- 1) 小学校校舎の老朽化への対応・耐震化
- 2) 通学路の安全確保
- 3) 遠距離通学の小学生のためのバス確保
- 4) 高齢者の移動手段としてのごんごバスの路線延長・路線新設
- 5) し尿・雑排水処理が不十分な住宅地での今後の対応

3. 町内会・支部などの個別課題

- 1) 旧市街地の街並み保全・空き家対策・高齢者の買い物・交通安全
- 2) 駅前再開発・景観整備・駅の南北をつなぐ道路新設
- 3) 集会施設の不足及び老朽化への対応
- 4) 中央病院周辺の交通渋滞解消(救急車の問題)
- 5) 交通事故多発地点・危険地点での安全対策
- 6) 文化財等(津山城・山城・神社・だんじりなど)の調査・保存と公園化(駐車場・便所・休憩施設・説明板・資料展示室等の整備)
- 7) 道路の新設・改良・舗装

津山市第4次総合計画の策定にあたって（討議資料）

平成17年7月25日
美作大学地域生活科学研究所

総合計画素案作成にあたっての基本的な考え方

津山市の人口は、平成7年をピークにして減少の一途をたどっており、今後もこの傾向は続く予測される。また、高齢化率も年々上昇すると予測されている。人口減少は税収減を意味し、高齢化率の上昇は福祉予算の歳出増を意味する。さらに、これまでの国・県の財政支援が削減される方向にあることから、財政事情はきわめて厳しくなることが伺われる。

第4次総合計画の目標年次の平成27年までの10年間は、これまで以上の厳しい財政環境下での取り組みとなると考えられ、この10年間でどのようにして乗り切るかが、次の10年間の展望を切り開くための試金石となる、といつてよい。

このことから、現在開催している地区別懇談会で示されている多種多様の忌憚のない意見をすべて満たすような財政事情になく、第4次総合計画の10年間だけでなく、将来にわたっても同様な状況が続くものと思われる。

したがって、意見のかなりの部分を市民の自助・共助を基本としながら実現させていくことを考えなければならない。そして、そのことを前提にしながら、行政として取り組むべき事業を絞り込んでいかなければならない。例えば、治山・治水・防災にしても、どの部分を市民の自助・共助とし、どの部分を行政が取り組むのか、という仕分けが必要となってくる。

しかし、市民の自助・共助を期待するにしても、そのことを行政が放置するわけにはならない。行政と市民がよく話し合い、市民の合意形成を行政が支援していく必要がある。例えば、自助・共助で市民が事業を実施する場合に補助金を出すというような誘導策も必要になると考えられる。

1. コミュニティ（住民自治の社会的、地域的な広がり・範囲）の再編
 - 1) 少子高齢化の進展に伴う自治組織の再編
 - ・ 児童生徒の個性や適正を活かすとともに学校の活性化を促す小中学校の通学区域の弾力化
 - ・ 学校の老朽施設の大規模改修とコミュニティ活動の促進を助長する開かれた学校づくりの推進
2. コミュニティ機能の強化と施設整備
 - 1) 住民自治の拠点施設
 - 2) 生活の拠点施設
 - 3) 心の拠点施設

- 3 . コミュニティの防災計画
 - 1) 自主防災組織の体制確立
 - 2) 緊急避難情報の徹底
 - 3) 災害時要援護者についての防災対策
 - 4) 治山・治水

- 4 . 都市基盤の整備
 - 1) コミュニティの生活道路の新設・改良
 - 2) 交通システムの再編と交通安全確保
 - ・ ごんごバス・通学バス・中山間地における福祉バス
 - 3) 市内中心部への幹線道路の整備
 - 4) 交通安全対策

- 5 . 環境とエネルギー
 - 1) バイオを活用した下水・ゴミ等の処理対策
 - 2) 新エネルギーの確保
 - 3) 親水空間の整備

- 6 . 歴史を活かしたまちづくり
 - 1) 町並み保存
 - 2) 空き家対策
 - 3) 高齢者の生活環境の整備

- 7 . 都市核の再編
 - 1) 郊外へのスプロール化の一段落と郊外新興住宅地における
少子高齢化の進行の予測
 - 2) 中心市街地活性化の鍵を握る都市核への若年家族の流動化
 - ・ 都市核の魅力ある生活環境整備
 - ・ 住宅供給と商店街の再生
 - 3) 駅前周辺の商業地再生の困難性とその対応、鶴山通り南部に
至る街路修景

- 8 . 産業政策
 - 1) 特産品の創設、受委託耕作システムの構築等、農業政策の樹立
 - 2) 美作大学技術交流プラザなどを核とした農林産物の6次産業化
 - 3) 観光資源のネットワーク化、新市外を含む広域観光ルートの構築

- 9 . 情報政策
 - 1) 高度情報通信環境の整備（情報格差是正）

津山市の現況と課題の把握にあたって

平成17年7月25日

津山市企画部企画室

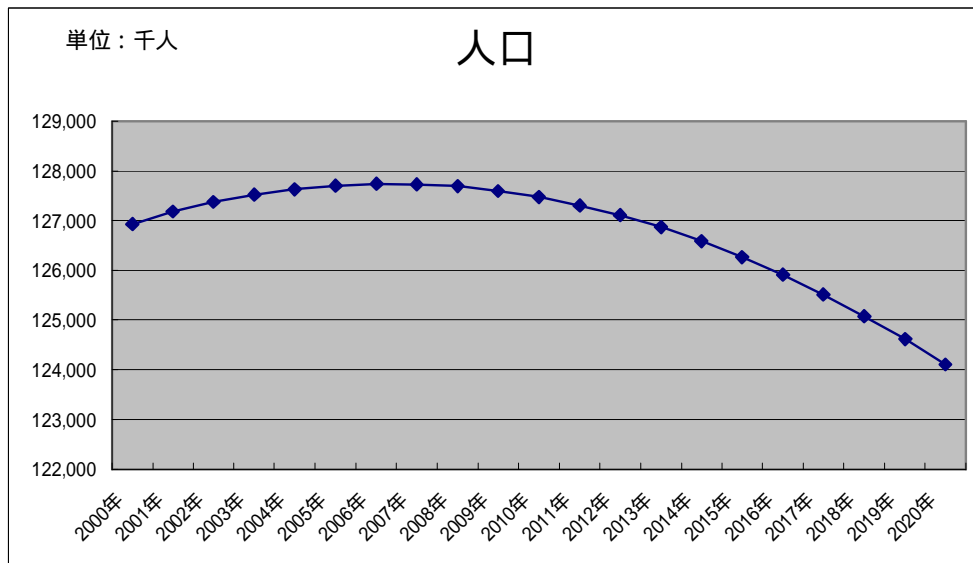
人 口

人口減少社会への対応

第4次総合計画の計画期間に、日本全体の人口が減少に転じるという今までに経験したことがない時代に入る。津山市のような中山間部に位置する地方都市にとって、何らかの対策を講じなければ人口減少が着実に進行すると予測される。コーホート変化率法による推計では第4次総合計画の目標年次（平成27年）には106,787人に減少すると予測している。今後の10年間にどのようにして人口の減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図っていくのが課題となる。

日本の人口は2006年から人口の減少に転じると推計されており、岡山県人口は平成14年をピークに減少に転じている。

【日本の人口推計】



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月推計）

【岡山県の人口】

（単位：人）

H12年10月 (2000年)	H13年10月 (2001年)	H14年10月 (2002年)	H15年10月 (2003年)	H16年10月 (2004年)
1,950,825	1,951,094	1,951,213	1,950,952	1,950,661

出典：岡山県庁HP（毎月流動人口調査）

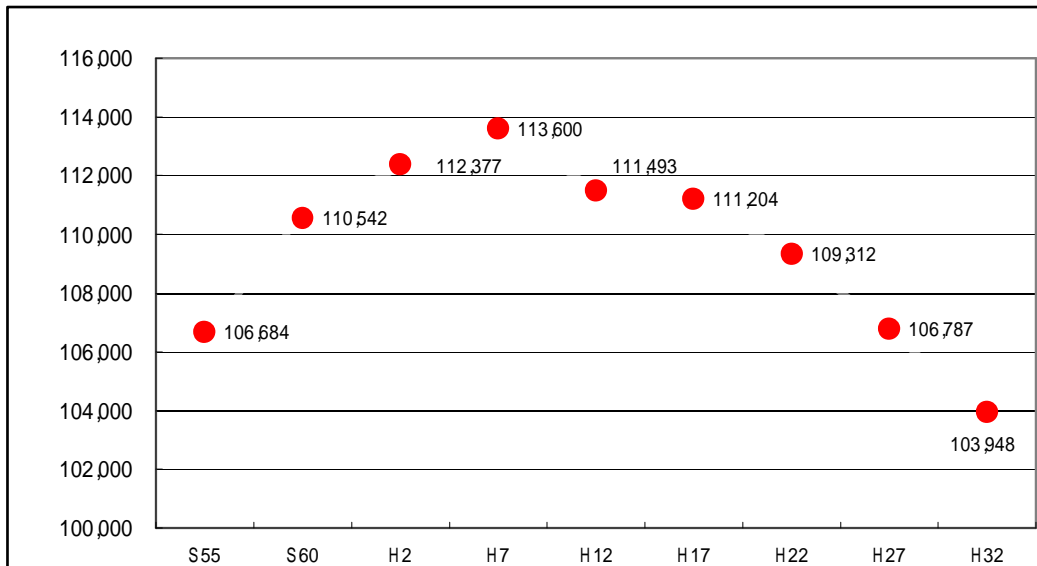
新市全体の人口は平成12年から減少に転じている。地域別に見ると、旧津山地域は平成12年度から、勝北地域は平成7年度から、勝北地域を除く旧町村地域は昭和55年以前から人口が減少している。コーホート変化率法による人口推計では、第4次総合計画の目標年次（平成27年）の人口は106,787人と予測している。

（単位：人、％）

区分	S55	S60	H2	H7	H12
	1985年	1990年	1991年	1995年	2000年
旧津山地域	83,136	86,837	89,392	91,153	90,150
加茂地域	6,577	6,439	6,139	5,913	5,478
阿波地域	845	818	754	711	681
勝北地域	7,638	7,818	7,673	7,800	7,512
久米地域	8,488	8,630	8,419	8,023	7,672
合計	106,684	110,542	112,377	113,600	111,493
前5年比較		1.04	1.02	1.01	0.98

津山市の将来推計人口

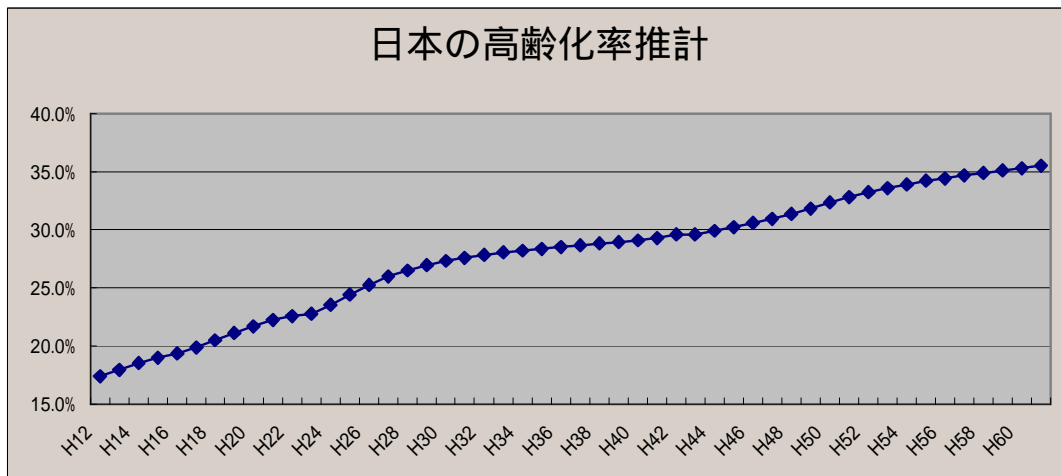
（単位：人）



超高齢社会への対応

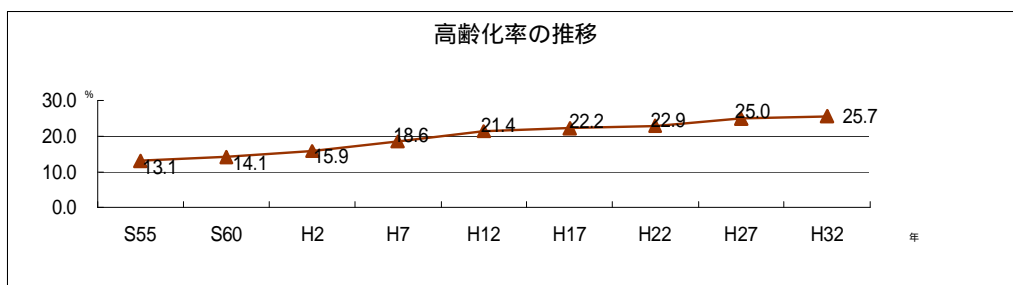
津山市の高齢化率は、平成17年4月現在22.87%であり、第4次総合計画の目標年次（平成27年）に25.0%に達すると推計しているが、町内別にみると高齢化率がすでに60%を超えている地区もあり、特に集落が散在している地域にあっては今後ますます厳しい状況になることが予想され、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくことができる環境をどのように整えていくかが課題となる。

日本の高齢者数は年々増加をしていき、高齢化率は平成17年現在19%であるものが、平成27年（2015年）には26%に達し、平成45年（2033年）には30%を超えると予測している。



津山市の高齢化率は、すでに平成12年の国勢調査人口で21.4%、総合計画の目標年次（平成27年度）には25.0%となると推計している。また、介護保険の住民基本台帳人口での推計では平成26年度の高齢化率を26.4%と推計している。

（単位：％）



高齢化の状況を町別に見ると、旧津山地域の中心市街地及び加茂地域で高齢化率60%に達している地区(町)があり、旧町村地域及び旧津山地域・中心市街地の高齢化率が非常に高い値になっている。

「町内別高齢化率一覧表」P. ____

「町内別高齢化率分布図」P. ____

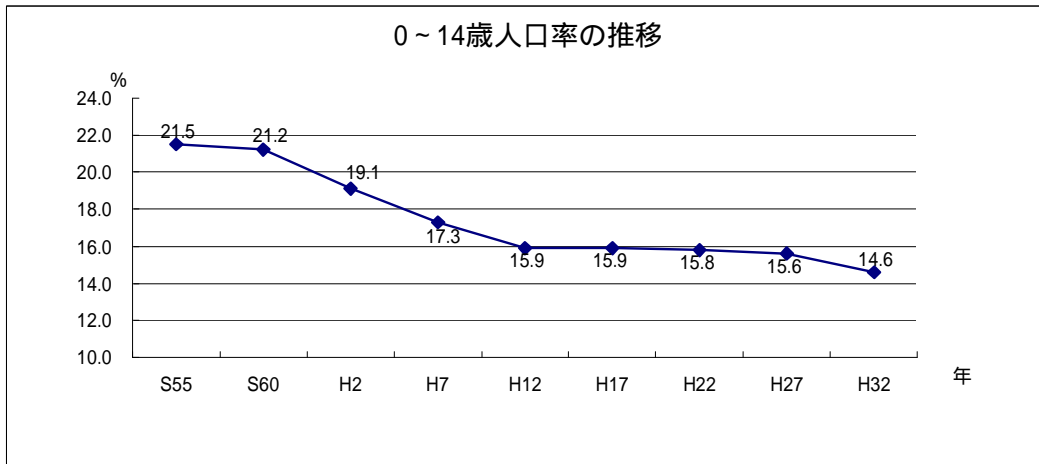
少子化への対応

日本の年少人口は、低い出生率のもとで減少が続くと予測されている。津山市の年少人口も減少が続き、昭和55年の国勢調査人口では0～14歳が21.5%であったものが、平成12年には15.9%になっている。今後、どのようにして少子化に歯止めをかけるかが課題となる。

コーホート変化率法による人口推計では、第4次総合計画期間中は減少率が低くとどまっているが、平成32年には平成27年に比較して1ポイント低下する予測となっている。

地域別の合計特殊出生率をみると加茂、阿波地域を除く地域は年々低下してきている。加茂、阿波の両地域は人口構成の関係で平成15年度は大きく上昇している。

(出典:国勢調査)



合計特殊出生率

	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域
平成11年	1.72	1.70	2.40	2.01	1.74
平成12年	1.72	1.70	2.40	2.01	1.74
平成13年	1.72	1.70	2.40	2.01	1.74
平成14年	1.68	1.57	1.67	1.75	1.73
平成15年	1.57	1.86	3.49	1.30	1.61

参考(平成15年) 全国平均 1.29 岡山県平均 1.38

津山市の土地利用の状況

新生「津山市」は合併により山林面積が約3倍、農用地経営耕地面積が約2倍に拡大しており、それぞれの地域特性を活かし、農林業の振興、自然環境の保全や自然を活用した観光振興等新たな資源活用への方策が求められる。

新市全体の土地利用の状況

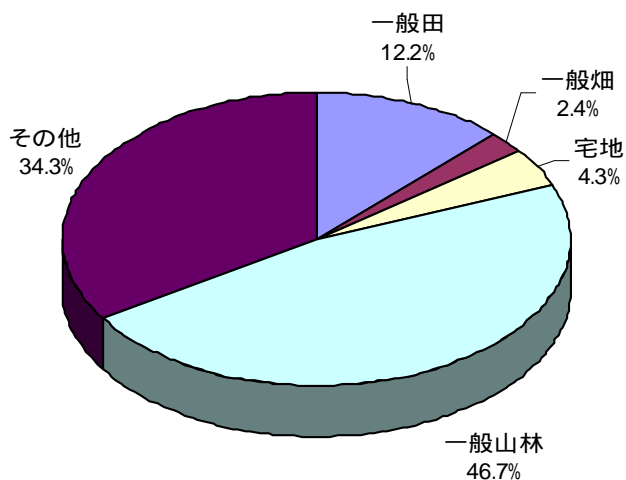
新市の面積は506.4k m²であり、この面積は県全面積7,112.2k m²の約7.1%を占める。また、土地利用状況で見ると、一般田62.0k m²（12.2%）、一般畑12.2k m²（2.4%）、宅地22.0k m²（4.3%）、山林236.7k m²（46.7%）、その他173.5k m²（34.3%）となっている。

土地利用の状況

（単位：k m²）

地目	一般田	一般畑	宅地	一般山林	その他	合計
面積	62.0	12.2	22.0	236.7	173.5	506.4
構成比	12.2%	2.4%	4.3%	46.7%	34.3%	100.0%

（資料：平成12年度土地利用状況調査）



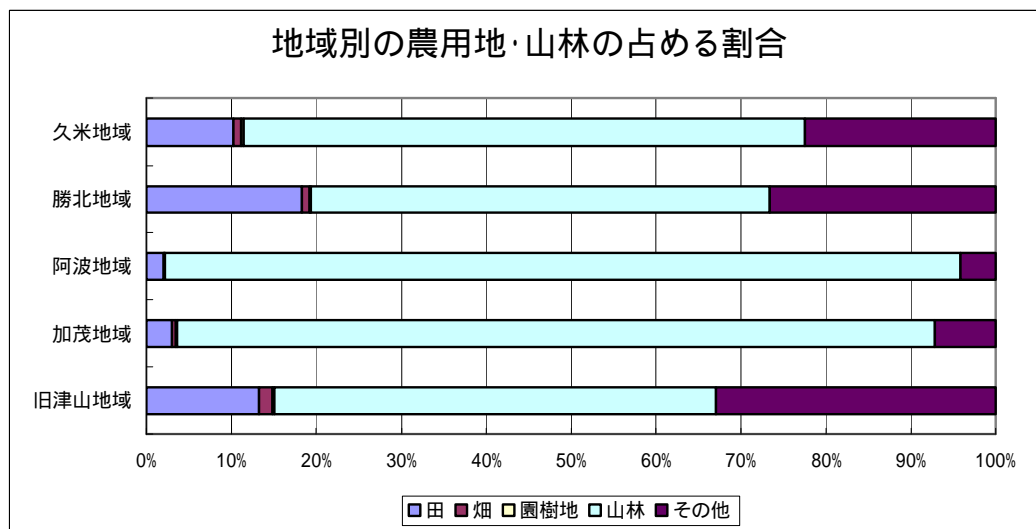
土地利用の状況

地域別の土地利用の状況

平成 12 年農業センサスによる農用地としての経営耕地面積と岡山県及び岡山県森林管理署資料による山林面積を集計し総面積比率をみると、津山市全体の経営耕地面積は総面積の 10.2%、山林面積は 69.5%を占める。また、地域別に見ると加茂、阿波地域は 9 割程度を山林で占めており、新市の山林面積は旧津山市の約 3 倍となっている。農用地の占める比率が高いのは勝北地域、旧津山地域、久米地域の順であり、新市の農用地経営耕地面積は旧津山市の約 2 倍となっている。

(単位：k m²、%)

区分	田	畑	園樹地	山林	その他	合計
旧津山地域	24.6	2.9	0.4	96.7	61.2	185.7
	13.2%	1.6%	0.2%	52.0%	32.9%	100.0%
加茂地域	4.8	0.7	0.2	142.2	11.4	159.3
	3.0%	0.4%	0.1%	89.3%	7.2%	100.0%
阿波地域	0.8	0.1	0.0	39.4	1.8	42.1
	1.9%	0.1%	0.1%	93.7%	4.2%	100.0%
勝北地域	8.2	0.4	0.1	24.3	12.0	44.9
	18.3%	0.9%	0.2%	54.0%	26.7%	100.0%
久米地域	7.6	0.7	0.2	49.2	16.7	74.4
	10.2%	0.9%	0.3%	66.2%	22.5%	100.0%
新 市	46.0	4.8	0.9	351.7	103.0	506.4
	9.1%	0.9%	0.2%	69.5%	20.3%	100.0%



* 農用地は平成 12 年農業センサス、山林は岡山県及び岡山県森林管理署資料による。

教育・文化・スポーツ

義務教育では、少子化により毎年児童・生徒数が減少している。施設の老朽化も進んでおり、長期的な整備計画に立った施設整備が必要である。

文化施設、スポーツ施設ともに全体的に充実しているが、各地域の施設連携や計画的な維持補修等が必要である。

教育・文化・スポーツ施設数

新市の学校教育施設は、公立・私立合わせて幼稚園17園、小学校28校、中学校8校、高等学校7校となっている。

社会教育施設等は、公民館21箇所（分館18箇所）、公会堂・市民会館5箇所、図書館4箇所となっている。

スポーツ施設としては、体育館9箇所、野球場6箇所、プール4箇所などが整備され、各地でこれらの施設を活用した様々な生涯学習活動が取り組まれている。

教育・文化施設の状況

(単位：園、校、人、箇所)

区分	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合計	全県
幼稚園	15	1	1	-	-	17	359
小学校	19	1	1	3	4	28	445
児童数	5,743	294	50	454	386	6,927	111,308
中学校	5	1	-	1	1	8	167
生徒数	3,084	209	-	265	248	3,806	56,759
高等学校	6	-	-	1	-	7	93
体育館	3	3	-	2	1	9	100
野球場	1	2	1	1	1	6	84
公民館	17	1	1	1	1	21	400
公会堂・市民会館	3	1	-	1	-	5	59
プール	1	1	-	1	1	4	78
図書館	1	1	-	1	1	4	44

(平成14年度)

児童・生徒数の推移

小学校の児童数、中学校の生徒数ともに、少子化の中で年々減少しているが、第4次総合計画の期間は、ほぼ横ばいになると見込まれる。

小学校児童数の推移

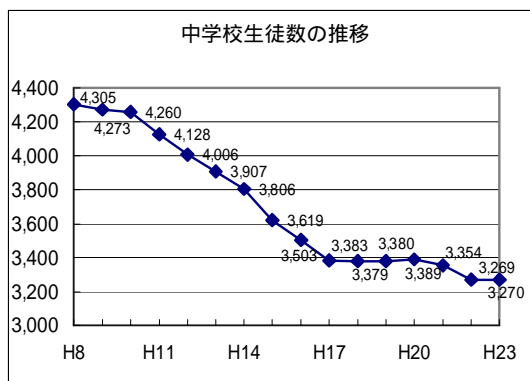
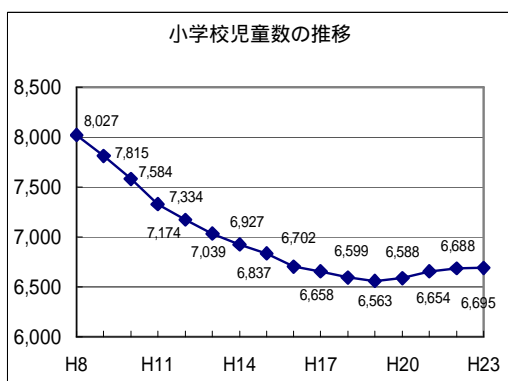
(単位：人)

	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合計
H8	6,495	401	56	527	548	8,027
H9	6,342	369	49	525	530	7,815
H10	6,169	353	54	516	492	7,584
H11	5,982	345	47	504	456	7,334
H12	5,889	336	48	469	432	7,174
H13	5,829	298	52	451	409	7,039
H14	5,743	294	50	454	386	6,927
H15	5,706	281	53	443	354	6,837
H16	5,621	258	44	446	333	6,702

中学校生徒数の推移

(単位：人)

	旧津山地域	加茂地域	勝北地域	久米地域	合計
H8	3,390	277	280	358	4,305
H9	3,372	271	290	340	4,273
H10	3,372	258	290	340	4,260
H11	3,289	244	280	315	4,128
H12	3,204	219	290	293	4,006
H13	3,143	219	276	269	3,907
H14	3,084	209	265	248	3,806
H15	2,947	197	232	243	3,619
H16	2,860	185	228	230	3,503



社会・文化施設

社会・文化施設は各地域に整備されており、文化施設としては、ホール機能をもつ施設が4箇所、音楽文化ホール施設、文化展示ホールがそれぞれ1箇所あるほか、図書館が4箇所、郷土博物館、洋学資料館、歴史民俗資料館などの施設がある。

種類	名 称
文化センター、ホール	津山文化センター
	音楽文化ホール・ベルフォーレ津山
	リージョンセンター
	津山市加茂町文化センター
	津山市勝北文化センター
展示施設	津山市立文化展示ホール
	津山市立勝北文化センター展示ホール
博物館等	津山郷土博物館
	津山弥生の里文化財センター
	津山洋学資料館
	箕作阮甫旧宅
	津山科学教育博物館、歴史民俗館
	津山市加茂町歴史民俗資料館
	津山市勝北歴史民俗資料館
	津山市久米歴史民俗資料館
図書館等	津山市立図書館
	津山市立加茂町図書館
	津山市立勝北図書館
	津山市立久米図書館
	津山市視聴覚ライブラリー
その他	岡山県婦人青年の家
	作州城東屋敷
	男女共同参画センターさんさん
	各地域公民館等

スポーツ施設

スポーツ施設は、各地域とも整備が進んでいる。

地 域	施 設 名 称
旧津山地域	津山スポーツセンター（野球場、サッカー場、小野球場、テニスコート）
	岡山県津山陸上競技場
	市営プール
	中央公園グラウンド、東部運動公園グラウンド、西部公園（グラウンド、テニスコート）草加部グラウンド
	岡山県津山総合体育館、岡山県津山東体育館、西部小体育館、東部小体育館 福岡体育館
	津山東武道場
加茂地域	加茂町スポーツセンター（ソフトボール場、テニスコート、体操練習場 総合グラウンド、屋内ゲートボール場）
	B&G海洋センター（体育館、プール）
	加茂町武道館
阿波地域	阿波グラウンド（グラウンド、テニスコート）
	阿波ふるさとふれあい会館
勝北地域	勝北総合スポーツ公園（野球場、多目的広場、テニスコート、プール、ゲートボール場）
	勝北中学校夜間照明施設
久米地域	久米総合文化運動公園（多目的広場グラウンド、体育館、テニスコート、 ゲートボール場、市民プール）

産 業

津山市の住民生活を支えている主要産業は、商業とサービス業であり、6割の雇用を支えている。

津山市は、津山圏域の農林業、製造業に従事する就業者や産業に各種サービスや物資を提供する機能を有しており、圏域の住民や産業従事者等の消費に支えられて、津山市の商業・サービス業は集積してきた。平成7年と12年を比較すると、圏域の製造業及び農林水産業の就業者数が大きく減少しており、更にこの傾向が進行すると、津山市の商業やサービス業への影響が懸念される。

合併により新市が誕生したが、津山圏域全体で相互依存の関係にあり、圏域全体が連携して地域の活性化を目指さなければならないが、特に津山市は中心都市として都市機能を高めて地域の魅力を高め、県北のリーダーとして地域経済を牽引していかなければならない。

平成12年において、就業者総数 54,805 人中、第1次産業 就業者数は 4,266 人(7.8%)、第2次産業 就業者数は 17,995 人(32.8%)、第3次産業 就業者数は 32,461 人(59.2%)となっている。

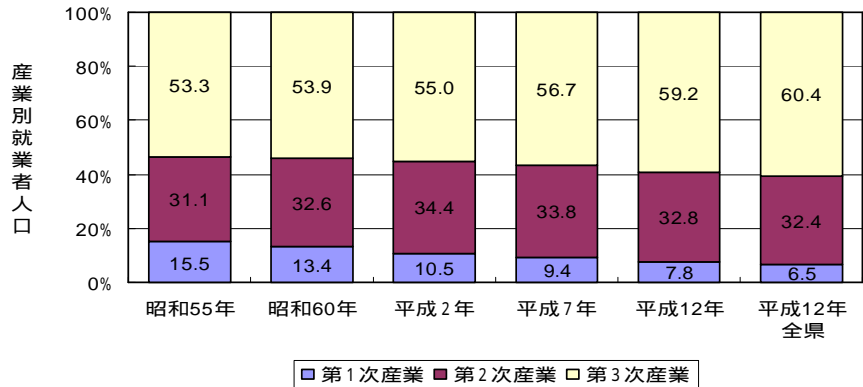
産業別就業構成では、第1次、2次産業の就業者数が大きく減少しているのに対し、第3次産業の就業者数は増加している。

産業別就業者人口の推移

単位：人

区 分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成12年 全県
人口総数	106,684	110,542	112,386	113,617	111,499	1,950,828
就業者総数	53,073	53,799	54,992	56,613	54,805	955,507
第1次産業就業者数	8,205	7,201	5,783	5,293	4,266	62,358
就業者総数に占める割合	15.5%	13.4%	10.5%	9.4%	7.8%	6.5%
第2次産業就業者数	16,529	17,526	18,943	19,130	17,995	309,353
就業者総数に占める割合	31.1%	32.6%	34.4%	33.8%	32.8%	32.4%
第3次産業就業者数	28,306	29,022	30,247	32,122	32,461	576,947
就業者総数に占める割合	53.3%	53.9%	55.0%	56.7%	59.2%	60.4%
分類不能	33	50	19	68	83	6,849
就業者総数に占める割合	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.7%

(資料：国勢調査)



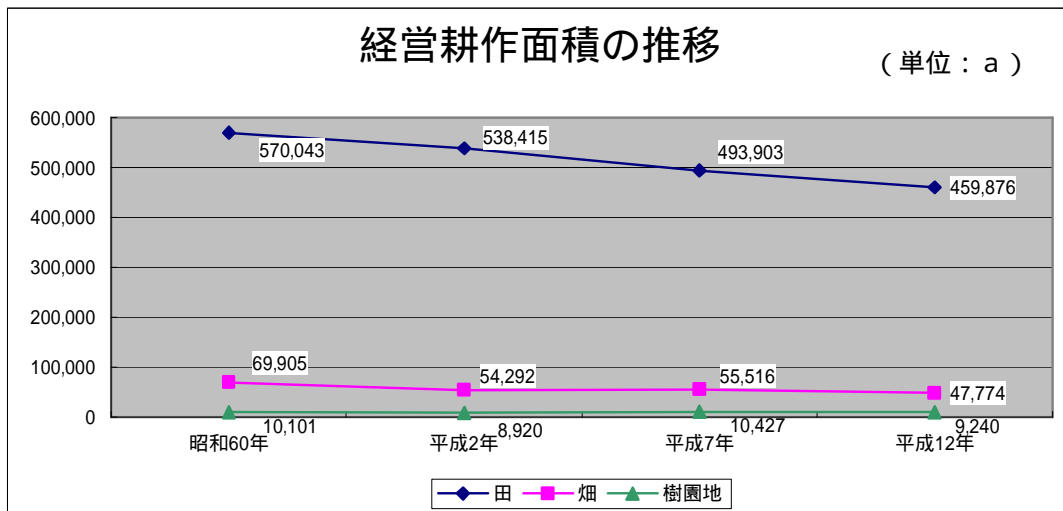
産業別就業者人口割合（平成12年度）

第1次産業：農業、林業、漁業を統合したもの。**第2次産業**：鉱業、建設業、製造業を統合したもの。**第3次産業**：電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業を統合したもの。

農業

農家の大半が兼業農家で占められており、農業従事者の高齢化等により農家数、農業従事者数、農業粗生産額ともに減少しており、耕作放棄地の拡大が進んでいる。農業法人組織等の組織化や担い手の育成を進め、新しい環境に適応した農業振興を進めることが課題となっている。

農業センサスによる経営耕作地面積の推移を見ると、田は年々減少し、畑及び樹園地も平成7年に少し増えたものの平成12年には減少しており、耕作放棄地の拡大が進んでいることが伺える。



農家数・農業従事者数・農業粗生産額 ともほぼ年々減少しており、平成 12 年において農家数 7,328 戸、農業従事者数 19,716 人、農業粗生産額 91 億円となっている。専業、兼業別にかかわらず農家戸数は減少しているが、特に第 2 種兼業農家の減少が大きい。

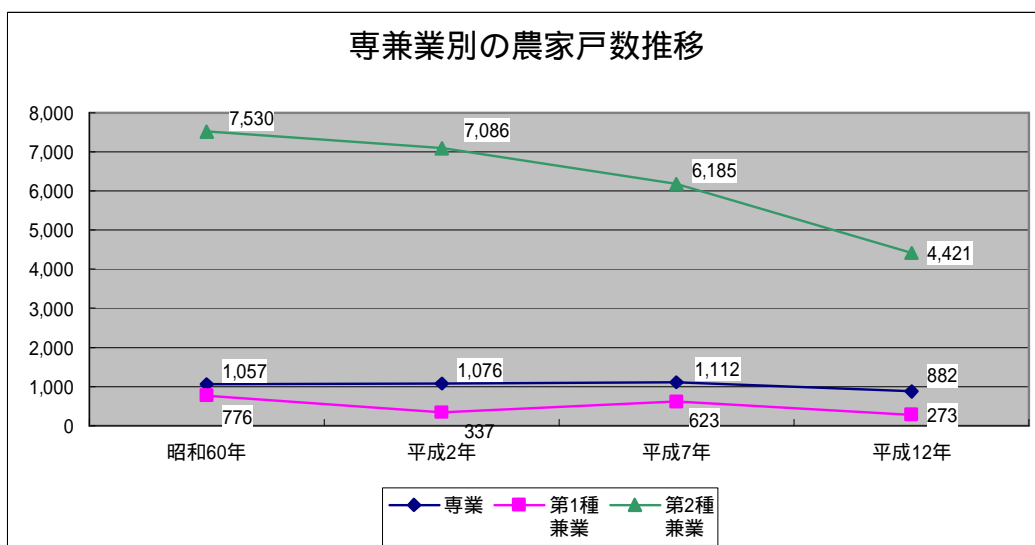
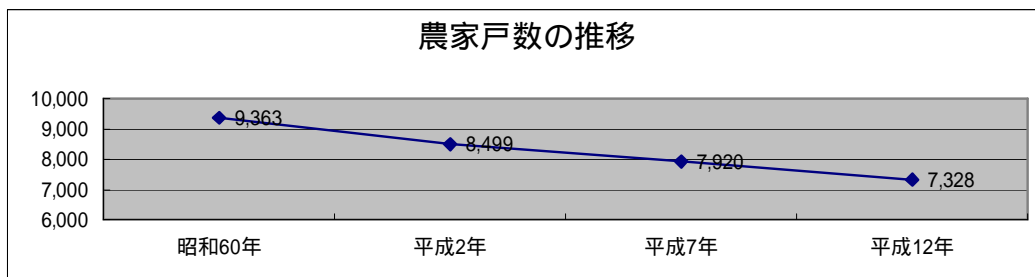
単位：戸、人、億円

区 分	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 12 年 全県
農 家 数	9,800	9,363	8,499	7,920	7,328	90,053
農業従事者数	25,849	24,881	23,068	20,643	19,716	240,703
農業粗生産額	143	150	118	116	91	1,362

(資料：岡山県統計年報、世界農林業センサス)

農業粗生産額：年内に生産された生産量（自家消費分を含む）から、再び農業生産に投入される種子・飼料などの中間生産物を控除した各農産物生産数量に、農家の庭先受取価格を乗じて算出したもの。

加工農産物については、個別加工農産物の生産数量に加工農産物価格を乗じたものから個別加工農産物の原料価格を乗じ、前者から差し引いたものである。



林業

津山市の山林面積は総面積の約7割を占め、特に加茂、阿波地域は山林の占める率が
高く人工林の割合も高いが、林家数は急速に減少している。国産材需要は外材の輸入に
押されて長期的な材価低迷が続くなど、林業を取り巻く近年の厳しい環境の中で、広大
な森林面積を持つ新市にとって、森林のもつ水源かん養、国土保全など公益的機能や
保養・休養機能の活用を積極的に進め、林業の新たな環境への対応が求められている。

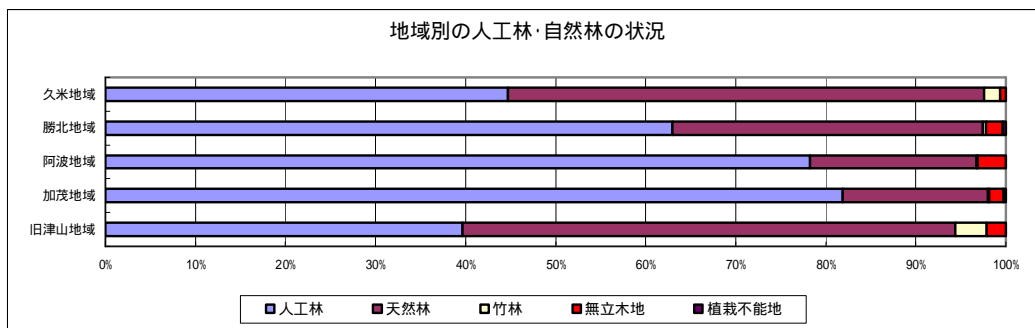
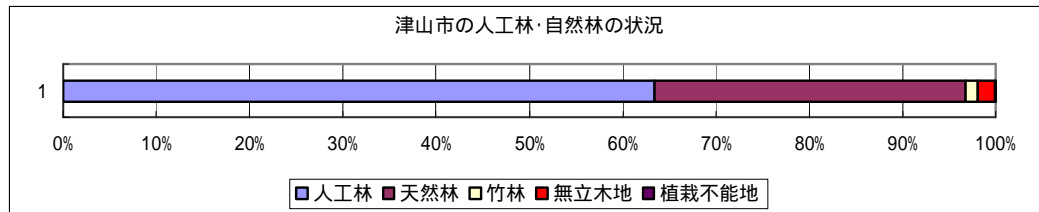
新市の森林面積は、35,169haで実に総面積の69.45%を占めている。また、
人工林が山林面積の約6割を占めている。

津山市の山林の状況

(単位：ha)

区分	人工林	天然林	竹林	無立木地	植栽不能地	合計
旧津山地域	3,829	5,295	333	208	1	9,666
加茂地域	11,642	2,286	27	220	42	14,217
阿波地域	3,082	728	7	123	0	3,940
勝北地域	1,526	837	8	45	9	2,425
久米地域	2,201	2,601	88	32	0	4,922
新市全域	22,280	11,747	463	628	52	35,170

* 出典：岡山県の森林資源、岡山県森林管理署資料



新市の林家総数は、平成 12 年において林家総数 2,481 戸となっており、急速に減少している。

林業の状況

単位：戸

区 分	昭和 55 年	平成 2 年	平成 12 年	平成 12 年 全県
林家総数	6,223	5,207	2,481	37,282
農家林家数	5,373	4,695	1,910	26,805
非農家林家数	850	512	571	10,477

(資料：世界農林業センサス)

工業

事業所数・従業者数は昭和60年以降減少し、製造品出荷額等も平成2年以降減少に転じており、物流団地・工業団地への企業の進出状況も順調とは言えない。今後、高速交通体系の整備等による立地条件の優位性を背景にして、企業誘致を積極的に推進していかねばならない。

事業所数・従業者数は昭和60年以降減少し、製造品出荷額等も平成2年以降年々減少に転じており、平成12年において事業所数496箇所、従業者数9,139人、製造品出荷額等1,982億円となっている。

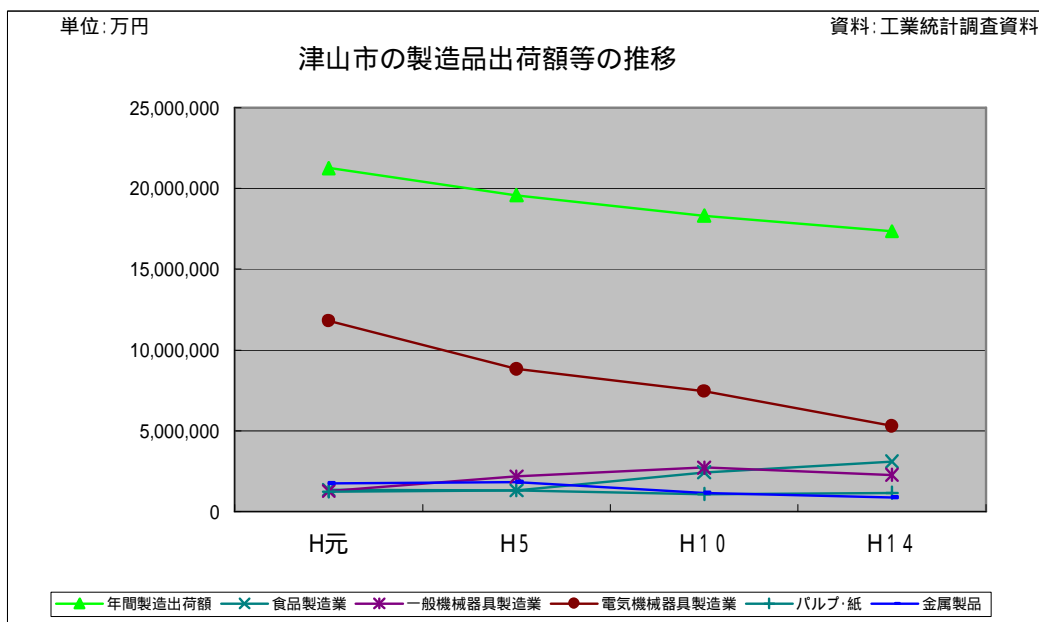
工業の状況

単位：箇所、人、億円

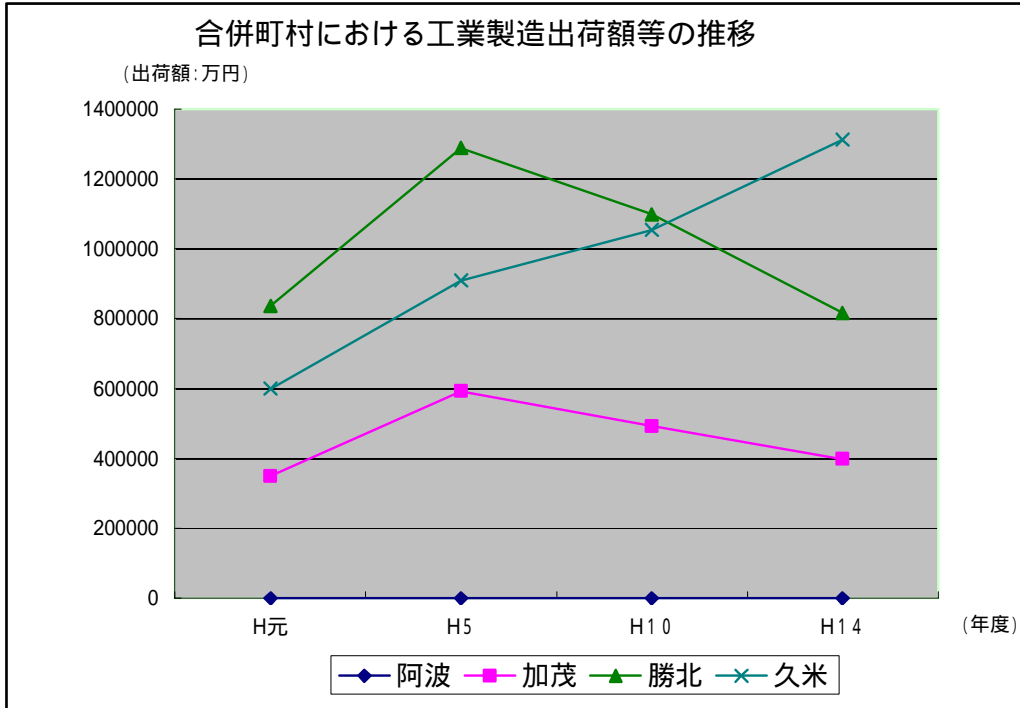
区分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成12年 全県
事業所数	616	668	608	569	496	8,641
従業者数	9,415	11,578	11,455	11,201	9,139	171,800
製造品出荷額等	907	1,881	2,309	2,075	1,982	64,045

(資料:工業統計調査)

旧津山地域の出荷額は平成元年以降を比較すると年々減少している。



旧町村地域は久米地域を除く地域は平成5年以降年々出荷額が減少している。



商業

モータリゼーションの進展に伴い、郊外大規模小売店舗への消費が集中し、これまで地域の生活を支えてきた中心商店街等の小規模商店の経営環境は厳しくなっている。既存の商店街においても消費者ニーズの多様化に対応できず、空き店舗の増加など商業集積としての魅力が低下している。

商店数は1,957店（平成11年）が立地しており、従業者数は11,733人で、年間販売額は3,317億円となっている。

大規模店舗の進出と小規模店の減少により、商店数は平成3年以降減少しているが、従業者数は増加している。

加茂、勝北、久米地域においても、地域の中心部の主要道路沿いにロードサイド型の店舗進出が進んでいる。

商業の状況

単位：店、人、億円

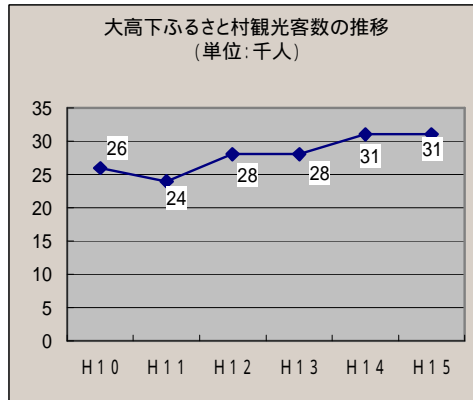
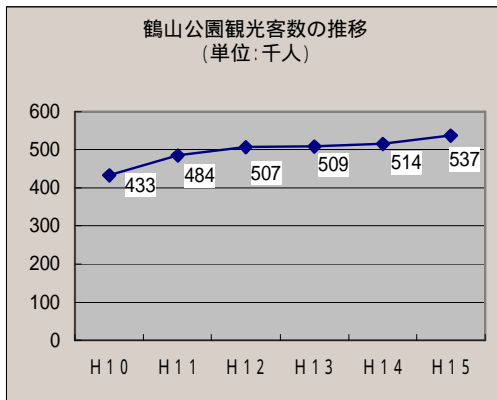
区 分	昭和63年	平成3年	平成6年	平成9年	平成11年	平成11年 全県
商 店 数	2,204	2,215	2,059	1,923	1,957	29,090
従 業 者 数	10,830	11,246	11,299	11,444	11,733	182,454
年間商品販売額	2,795	3,116	3,307	3,296	3,317	64,024

(資料：商業統計調査)

観光

新市は、旧津山地域の歴史資産や文化施設に加え、優れた自然景観や豊富な観光資源に恵まれる都市となった。県北の広域観光の拠点として、観光客もわずかずつではあるが増加しているが、通過観光客が多い。今後は、各地域の観光資源、宿泊施設等に関する情報のネットワーク化を進め、地域自らの情報発信を促進して、近隣の主要観光地との連携を進め、集客力を高めていく必要がある。

鶴山公園の観光客数は平成10年以降微増を続けており、大高下ふるさと村も年毎に増減はあるものの増加している。



(出典：岡山県観光客動態調査)

旧津山地域は、鶴山公園、衆楽園、作楽神社、中山神社等をはじめとする歴史的な観光資源や郷土博物館、洋学資料館、自然のふしぎ館等をはじめとする文化施設などを有してきたが、合併後の新市は、更に優れた自然景観に恵まれた観光資源や温泉施設等を加えた都市となった。

医療・福祉

医療施設は旧津山地域に集中しており、加茂、勝北地域の病院も含めた広域的な医療システムの構築、市民の通院体制の整備が必要である。

福祉・介護施設は各地域に整備されているが、在宅サービス体制は津山市に集中しており、均一なサービス利用環境、地域の支援体制をいかに構築していくかが今後の課題である。

高齢化の進展にともない後期高齢者が増加しており、今後とも介護問題が大きな課題となる。

医 療

新市の病院、一般診療所数は、それぞれ 12 施設、105 施設ある。病床数は、病院施設では 1,738 床で、人口千人当りでは 15.6 床と県平均を下回っているが、一般診療所では 541 床で、人口千人当りでは 4.9 床と県平均を上回っている。

医療施設の状況

(単位：箇所、床、%)

区 分	旧津山 地域	加茂 地域	阿波 地域	勝北 地域	久米 地域	合 計 (千人当)	全 県 (千人当)
病院 施設数	10	1	-	1	-	12	192
病床数	1,615	60	-	63	-	1,738 (15.6)	31,508 (16.2)
一般診療所 施設数	87	4	-	10	4	105	1,602
病床数	519	22	-	-	-	541 (4.9)	4,419 (2.3)

資料：平成 13 年岡山県統計年報、平成 13 年度公共施設状況調査

福 祉

(1) 児童

新市の保育所数は、公立・私立合わせて 31 施設あり、平成 13 年度で定員数は 2,735 人で県全体の 7.8%を占めている。また、保育所施設充足率は 90.6%となっており、県平均の 88.0%を上回っている。

平成 16 年度での新市の充足率は 99.6%であるが、旧津山地域は 100%を超えており、加茂、久米地域で 90%以上であるが、勝北地域は 73.8%となっている。

保育施設の状況

単位：箇所、人、%

区分	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合計	全県
保育所 施設数	23	2	-	4	2	31	426
定員数	2,205	90	-	260	180	2,735	35,186
施設充足率	90.2	90.0	-	98.9	102.9	90.6	88.0

(資料：平成13年度公共施設状況調査)

乳幼児人口と保育所の措置児童の推移

平成16年度

地域	乳幼児人口	保育所数	定員	措置数	普及率 (定員 / 乳幼児人口)	充足率 (措置数 / 定員)
旧津山地域	5,711	23	2,310	2,375	40.4	102.8
加茂地域	210	2	120	109	57.1	90.8
阿波地域	36	0	0	10	0.0	
勝北地域	378	4	260	192	68.8	73.8
久米地域	303	2	200	191	66.0	95.5
合計	6,638	31	2,890	2,877	43.5	99.6

(2) 障害者(児)

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者の合計は、平成 16 年 3 月末現在 5,661 人となっている。

身体障害者手帳所持者数

(合併 5 市町村合計)

年度	11	12	13	14	15
視覚	386	374	371	377	376
聴覚・平衡機能障害	423	417	413	422	410
音声・言語・そしゃく機能障害	49	51	49	46	46
肢体不自由	2,610	2,592	2,676	2,676	2,717
内部障害	906	960	1,067	1,170	1,244
合計	4,373	4,394	4,520	4,691	4,793

療育手帳所持者数

(単位:人)

年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度
A	222	223	226	234	242
B	338	347	354	370	370
合計	560	570	580	604	612

精神障害者保健福祉手帳所持数

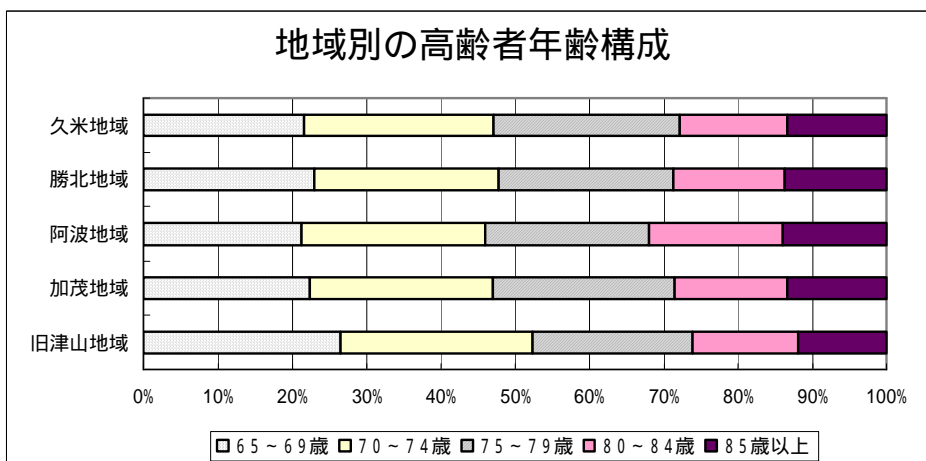
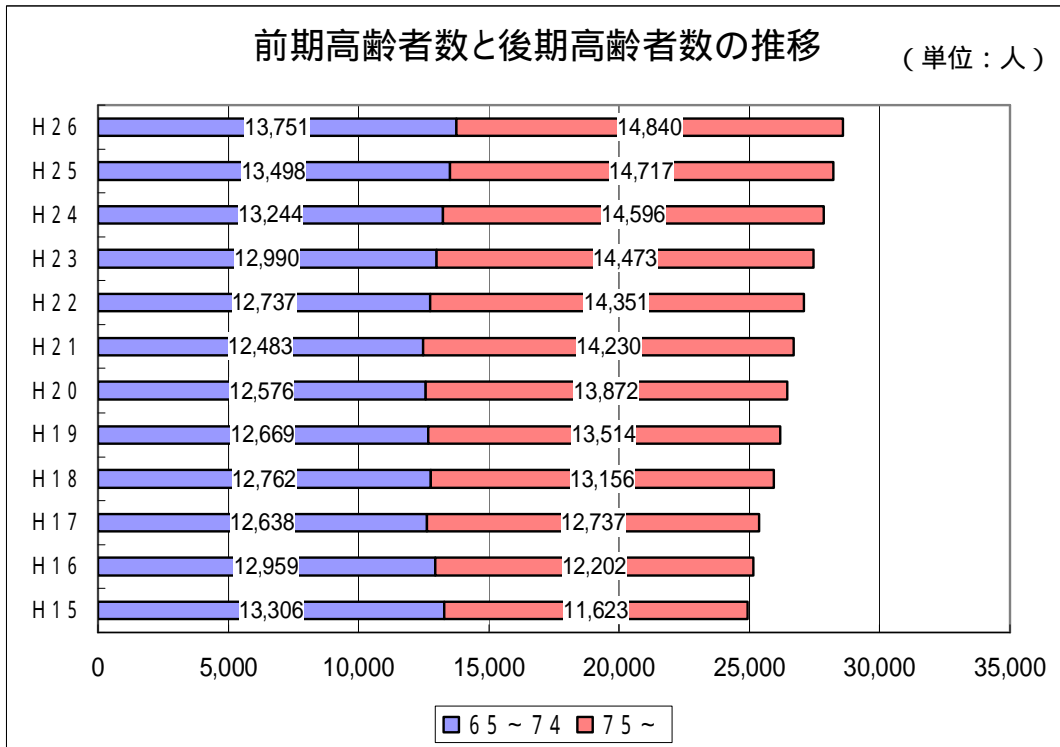
(単位:人)

区分	H14年度	H15年度
1級	35	42
2級	140	168
3級	43	46
合計	218	256

(3) 高齢者

高齢者の状況

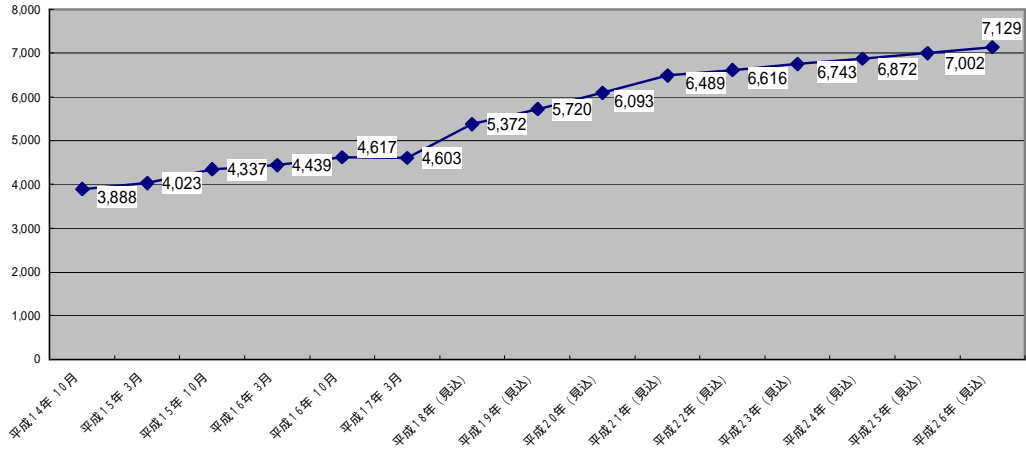
年々高齢者数が増加し、しかも75歳以上の後期高齢者の割合が次第に高くなっていく。地域別にみると、後期高齢者の割合が最も高いのは阿波地域、次が加茂、久米地域が同程度、そして勝北、旧津山と続く。



要介護高齢者

介護や支援が必要な高齢者である介護保険の認定者数は年々増加しており、サービスの利用者も年々増加している。(施設サービスは施設数の関係上入所者数は変化していない。)

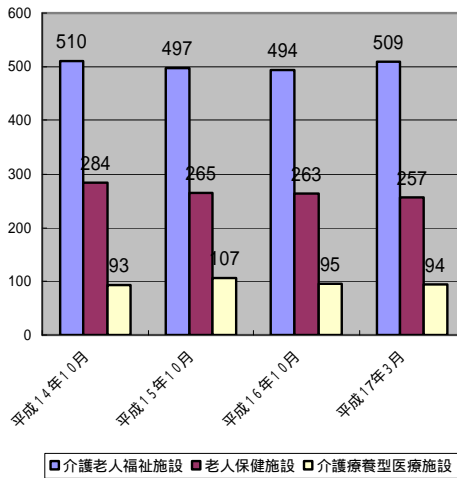
認定者数の推移



居宅サービス受給者数の推移



施設種類別入所状況



高齢者サービス

介護保険が使えない高齢者が利用できる高齢者福祉施設としては養護老人ホーム 1.5 箇所、在宅老人サービスセンター 2 箇所などがある。

区 分	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合 計
養護老人ホーム	1	-	-	0.3	0.2	1.5
在宅老人サービスセンター	-	-	1	-	1	2

(資料：平成13年度公共施設状況調査)

介護保険の要介護認定者が利用するサービスとして、津山市内に多くの事業者が進出しているが、居宅サービス事業者は旧津山地域に集中している。

介護サービス事業者数

サービスの種類	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合計
訪問介護	28	2	1	2	1	34
訪問入浴介護	3	0	0	0	0	3
訪問看護	9	1	0	2	0	12
訪問リハビリテーション	3	0	0	0	0	3
通所介護	17	1	1	2	1	22
通所リハビリテーション	6	1	0	1	0	8
短期入所生活介護	3	1	0	2	1	7
短期入所療養介護	7	2	0	2	0	11
痴呆対応型共同生活介護	12	1	0	1	1	15
特定施設入所者生活介護	2	0	0	0	0	2
福祉用具貸与	8	0	0	2	0	10
居宅介護支援	24	2	1	3	2	32
介護老人福祉施設	3	1	0	2	1	7
介護老人保健施設	4	1	0	1	0	6
介護療養型医療施設	3	1	0	1	0	5

生活環境

ごみ処理

限りある資源の有効活用と地球環境の保全に対する意識の高揚を図りながら、行政、市民、事業者などが一体となったごみの減量化と再資源化を推進し、人と自然にやさしい資源循環型のまちづくりをめざしている。

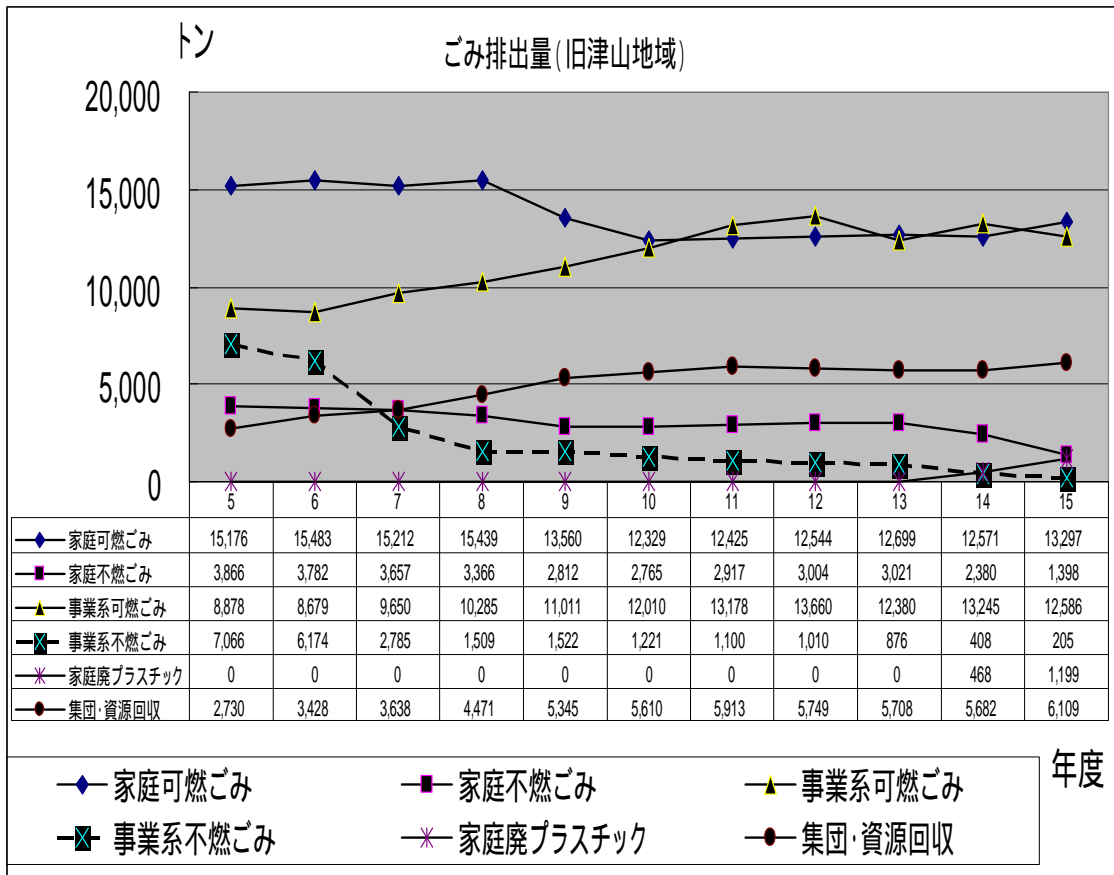
旧津山地域におけるリサイクルしたごみの量（平成15年度）

集団回収で集めたもの 4,455 t
 集められたカン・ビン・ペットボトル 1,573 t
 集められた紙類・布類 81 t

旧津山地域におけるリサイクル率（資源化率）の状況（平成14年度）

旧津山地域 20.7%
 国 15.9%
 県 16.7%

旧津山地域におけるごみ排出量



加茂・阿波・勝北・久米地域におけるごみ排出量の推移

	加茂地域		阿波地域		勝北地域			久米地域	
	13年度	14年度	13年度	14年度	13年度	14年度	15年度	13年度	14年度
計画収集人口 (人)	5,640	5,569	703	713	7,522	7,539	7,500	8,012	7,930
ごみ搬入量(t)	1,057	924	97	89	1,916	1,846	1,683		1,250

都市基盤の整備

津山らしさのあるまちをつくるため、津山市景観整備基本計画に基づき建築物の景観誘導や保全推進を進めるとともに、津山城跡を中心とし、城下町の特徴を活かした景観整備に取り組んでいる。道路については、道路改良率・舗装率の地域的な格差解消に努めながら、利便性の向上など計画的な整備推進が必要である。河川に関しては、集中豪雨や台風などの突発的ないっ水に対応しつつ、水辺の自然と人々とのかかわりを持つことのできる整備が求められている。公営住宅は老朽化が進んでいるため、修繕や建て替えを計画的に進める必要がある。下水道は、阿波地域がほぼ全戸の普及となっているが、全体の普及率は約三割であり、今後さらなる普及促進に努める必要がある。なお、市街地の内水対策は計画的に推進することが重要である。また、都市計画区域内の都市公園の着実な整備推進も求められている。

道路交通

新市の市道実延長は、1,656.1kmで、県全体の6.2%を占めている。また、道路改良率は42.1%で県平均の41.3%を上回っており、道路舗装率も84.2%で県平均の77.5%を上回っている。しかし、道路改良率・道路舗装率ともに、地域的な格差が認められる。

道路の状況

単位: km、%

区分	旧津山地域	加茂地域	阿波地域	勝北地域	久米地域	合計	全県
道路実延長	1,022.7	135.5	14.1	207.7	276.0	1,656.1	26,536.0
道路改良率	44.3	56.9	51.0	51.7	19.0	42.1	41.3
道路舗装率	86.5	90.4	97.7	87.9	69.2	84.2	77.5

(資料: 道路現況調 平成16年4月1日現在)

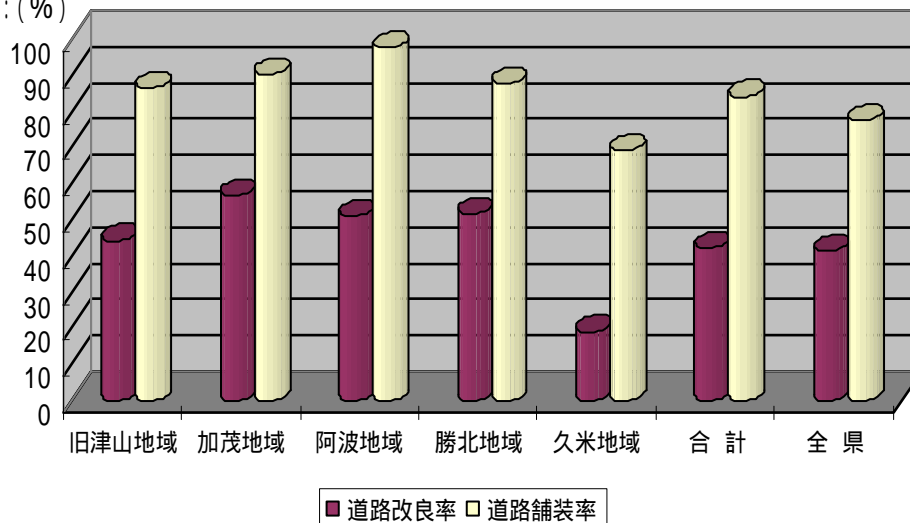
道路改良率

$$= \text{改良済延長} \div \text{実延長} \times 100$$

道路舗装率

$$= \text{舗装済延長} \div \text{実延長} \times 100$$

単位: (%)



公営住宅

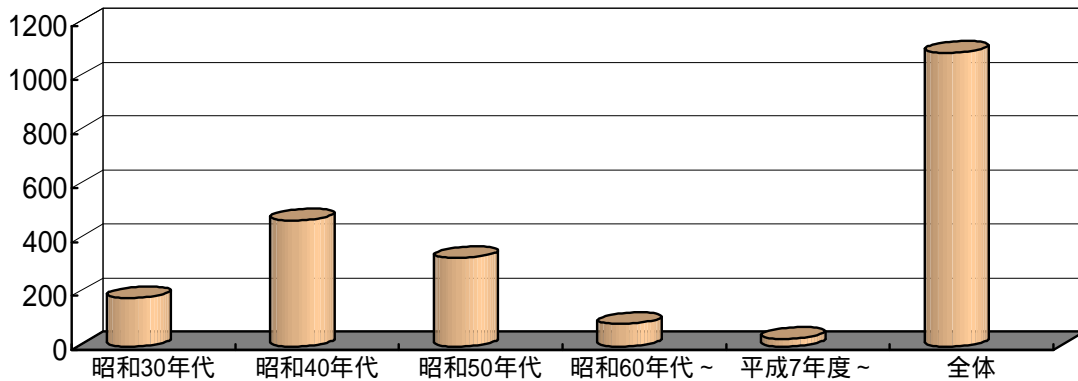
住宅に困窮する低所得者対策として、質より量の公営住宅が建設されてきたが、建築から30年を超える住宅においては老朽化が進んでいるため、修繕や建て替えの必要に迫られている。

(平成17年4月1日現在)

年代	昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年～平成6年度	平成7年度～	合計戸数
建設戸数	180戸	468戸	329戸	84戸	30戸	1,091戸

単位:(戸数)

年代別公営住宅建設戸数



下水道

公共下水道事業の平均普及率は29.51%であるが、地域による普及率にばらつきがある。農業集落排水事業は、現在加茂・阿波地域の4地区で供用しており、普及率1.11%となっている。公共下水道事業と農業集落排水事業を合わせた全体の汚水処理人口の普及率は30.62%となっている。

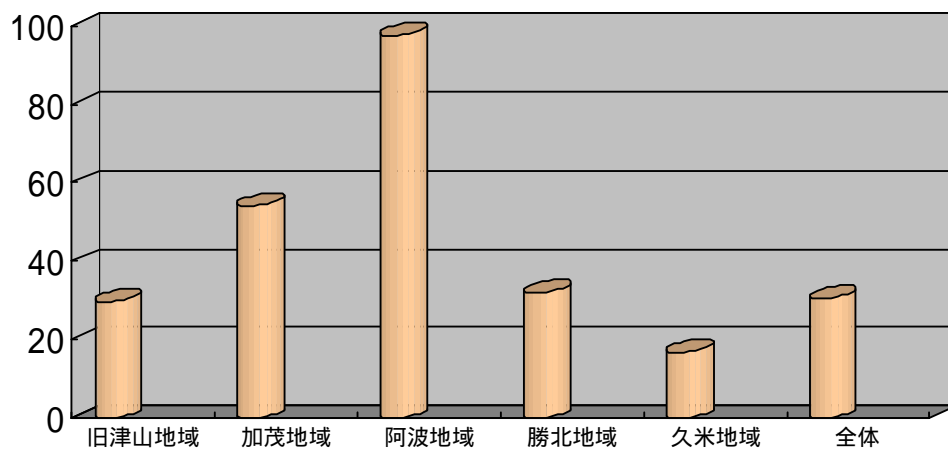
阿波地域は普及率が97.60%とほぼ全世帯で普及している。

し尿と生活雑排水をあわせて処理できる、合併処理浄化槽の普及を年次的に進めている。

(平成17年3月31日現在)

	住民基本 台帳人口 (人)	公共下水道		農業集落排水		合計	
		処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)
旧津山地域	88,985	26,470	29.75			26,470	29.75
加茂地域	5,402	2,391	44.26	537	9.94	2,928	54.20
阿波地域	707			690	97.60	690	97.60
勝北地域	7,368	2,357	31.99			2,357	31.99
久米地域	7,719	1,298	16.82			1,298	16.82
合計	110,181	32,516	29.51	1,227	1.11	33,743	30.62

单位: (%) 污水処理人口整備率



合併処理浄化槽設置基数 (単位: 基)

年 度	規 格					合 計
	5 人 槽	6 人 槽	7 人 槽	8 人 槽	10 人 槽	
平成7年	3	44	29	80	142	298
平成8年	6	26	39	84	112	267
平成9年	3	48	30	61	111	253
平成10年	15	71	61	50	122	319
平成11年	23	68	95	61	81	328
平成12年	90	26	202	23	26	367
平成13年	102	0	246	1	15	364
平成14年	113	0	248	1	16	378
平成15年	136	0	287	0	18	441
平成16年	137	0	270	0	23	430

都市公園

現在の都市計画区域内人口1人当たりの都市公園面積が12㎡であるが、「津山市緑の基本計画」では平成31年で20.1㎡を目標としている。

都市公園整備状況

(平成17年2月28日現在)

地域名	都市公園数 単位:箇所	都市公園面積 単位:㎡	都市計画区域 人口(H12) 単位:人	都市計画区域 1人当たり面積 単位:㎡
旧津山地域	42	803,923	79,239	10.15
勝北地域	4	196,407	5,489	35.78
久米地域	9	95,510	6,507	14.68
全 体	55	1,095,830	91,235	12.01

都市公園整備済状況

単位:(箇所・㎡)

